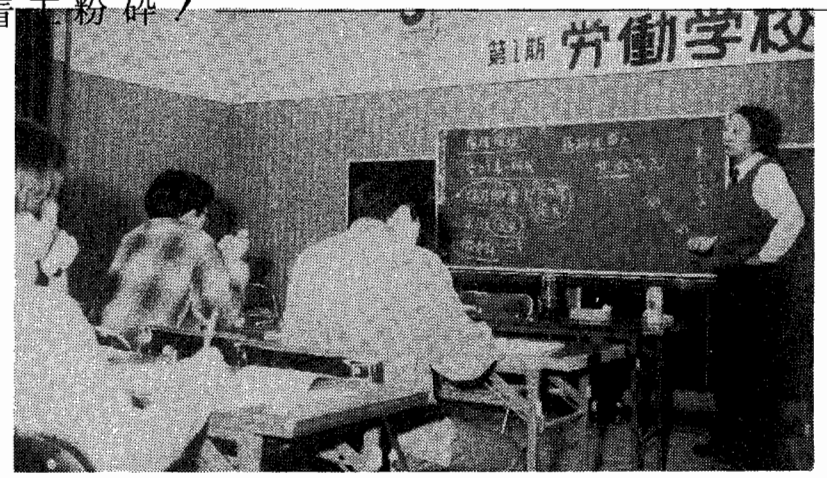


# 日刊 勤労千葉

85. 2. 25  
No. 1873

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七



# アジア侵略戦争をくいものに太ってきた日本 資本主義を解明 労働学校(第11回講座)開かる

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 /

「勤労千葉労働学校」第11回講座は、二月十六日、動力車会館において、東京大学教授・田中宗氏を講師に開催されました。「60・3ダイ改」阻止闘争の交渉が緊迫し、勤労千葉単独実力決起（非協力・安全確認）順法行動第一波（二月二十日～二十一日）への忙しい前夜情勢のなか、全支部および友誼単産からの受講生が参加して熱心におこなわれました。講義は「日本資本主義の歴史的特質」と題して、日本資本主義の成立・発展・ゆきづまりの過程を、明治維新から日清・日露、さらには第一次・第二次の世界戦争・アジア侵略戦争、そして敗戦・朝鮮戦争・ベトナム戦争への加担・特需景気・復活・高度成長という歴史の流れのなかで問いつてみるという形で行われ、わかりやすくおこなわれました。そして、日本資本主義が今日ぶちあたっているどんづまりの危機が、侵略・戦争という「日本資本主義の本性」につき進んでいくものとしてあることを解明されました。受講生からの感想文を紹介します。（編集委員会）

## 感想文 成田支部 K生

日本の資本主義は、徳川幕府の封建主義体制を「明治維新」という内戦によってうち倒し、外国の知識を取り入れて、政府主導のうわべだけの

「近代化」というものがえをもつて形成されていった。

資本主義が発展していく過程に必要不可欠とされる「資本」と「労働力」という前提条件は、日本の場合、次のようにして創り出されていった。すなわち、「労働力」については、今までの身分的差別（士・農・工・商など）を廃止し、生産手段をもたない農村の労働者を雇い、生産力を確保した。そして「資本」においては、「地租改正」を行い、土地の私有を認め、税金をかけ、それにより「資本の蓄積」をおこない、機械と武器を輸入していった政府は、「殖産興業」「富国強兵」をかけ声に諸政策を行っていった。

### 労働者・農民の犠牲の上に発展

一八七四年（明治六年）に徴兵制をしき、国家が命令一つで兵隊をつくり（国民皆兵）、日清・日露戦争を行い、朝鮮・台湾等への植民地侵略に入っていた。

産業資本の確立により、再生産構造としての主軸を紡績業（輸入綿を大規模工場糸・布に）、製糸業（農家の「まゆ」を低価格で購入）において、「女工哀史」「野麦峠」という映画や本などでも知られているように、農村からつれてきて低賃金で働かせ、製品は低価格で海外へ輸出するというやり方で労働者を酷使した。

又、農業においては、「地主」と「小作」という関係があり、地主は「十アールあたり三百キロ」という高い小作料をまきあげた。

この当時、資本主義が高い成長率をあげた裏には、このような、人間を人間としない政策がとられていたからである。

### 「危機」は「侵略・戦争」へ向っている

又、時の政府は、市場競争を海外へ向け、植民地政策をとり、一八九四年（明治二十七年）日清戦争において台湾と朝鮮半島の支配を強め、まきあげた賠償金で「金本位制」をしき、一九〇四年（明治三十七年）日露戦争において満州の支配を確保し、一九一〇年には「日韓併合」、一九一四年には中国大陸のドイツ植民地領を武力で奪って支配するというように、まさに侵略と戦争特需によって日本資本主義は一大成長をとげていった。

しかし、一九二〇年には恐慌がおこる。一九二五年には「普通選挙（女子は含まず）制」がしかれるが、同時に「治安維持法」が制定され、時の政府に反発する政党を大弾圧し、解散においこんだりした。その結果としてファシズムが抬頭し、軍部も抬頭して、国民の目を外国にむけさせ、満州事変・日華事変・第二次世界大戦へとつぎつぎと戦争体制に入ってしまった。

このように政府に反対する運動がつぶされていった結果として、戦争体制が確立されたものである。又、敗戦後は、一九五〇年の朝鮮戦争により復興をとげ、「高度成長」時代に入るが、このように歴史を見てもわかるように、現在においても市場はアジアに向けられ、アジアのすみずみまで日本の資本が浸透して、「昔は鉄砲により」侵略し、「今は資本により」侵略している。

日本の成長過程には二重構造があり、繁栄の裏には略奪があり、市場の競い合いはかなり激しい物があり、背景には軍事力強化があり、楽観してはならないものがある、と講義はしめくられた。私は、このような歴史を二度とくり返してはならないと思った。（寄稿）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！